

< 今日の説教のポイント 創世記 41章 >

ヨセフ物語の大きな転換点の章です。2回に分けて学びます。

①神様のご計画を信じて生きるとは？

給仕長の夢を解いて見せたのに、忘れられて牢屋に入れられ続けたヨセフ(40:23)。誰もが「かわいそうに」と思うこの結末は、エジプトの王の夢を解くことになる、神様のもっと大きな恵みのご計画の中に置かれていたのです！ 私たちに起こる不幸な事態も、同じ神様の御手の中に置かれていることを覚えて、神様の将来に希望を持って生きていく者でありたいと思います。真の信仰者とは、そのような者だからです（アブラハムの信仰も！ ローマ4:17）。

②王の姿から学ぶべきは何？ この世の王は恐れるに足りず！

妙な内容の夢を見て、ファラオは「ひどく心が騒ぎ」（8）ます。全てを所有し、支配しているエジプトの「王」が怯え慄くのです！ そう言えば、イエス様の誕生を知ったヘロデ王も「不安を抱いた」（マタイ2:3）のです。この世の王がどんなに力を持っていたとしても、恐れるに足りず、なのです。では、本当に恐れるべきものは何か？ 本当に頼るべきものは何か？ ヨセフから知らされます。

③ヨセフの姿から学ぶべきは何？ 神中心の人生の確かさ！

聖書が徹底して示そうとしているヨセフの姿は何でしょうか？ それは「神中心の姿」です。「自分が解き明かすことより、神様が告げようとされたことが大事なのだ」（16, 25, 28, 32）と4度も語らせています。聖書を読む者はこのことを読み取らなければなりません。私たちは、ヨセフに夢を解く能力が与えられたことに目が行きがちです。しかしヨセフは「そうではない。神様がなさるということに目を向けよ」と語るのです。イエス様も言われました、「それは人間にできることではないが、神はなんでもできる」（マタイ19:26）。聖書が教える信仰とは、適当に神様のことを覚え、うまくいっている時は神様のことを思い出さず、困った時だけ神様に目を向けるではありません。どんな時も（牢屋に入れられた時も）神様を見つめ、聖書から教えられる救いに満ちた神様の声に従って生きることです。その時、将来は希望に満ちたものになるのです！